



2019年2月

## ダボスの希望の星

公益財団法人 国際通貨研究所  
名誉顧問 行天豊雄

毎年冬のスイスで開催されるダボス国際経済フォーラムは主催者の天才的とも云える商才のお蔭で今や国連総会並の大政治イベントになった。世界中の政財界の「大物」達は「ダボス会議に出席しないと一流でない」という強迫観念に捉われて、嬉々として客寄せパンダの役を演じ、パンダの値打ちのない小物は多額の参加料を払って集まってくる。世界に訴えたい夢を持っている者、世界に弁解しなければならない弱味を持っている者、世界を相手に強面で芝居をする者等々狙いはさまざまだが、ダボス会議は確かに世界的な喉自慢であり、美人コンテストではある。

ところが、今年のダボスは異変があった。大物がいなかったのである。米中英仏等の主要国の首脳が姿を見せなかった。別に第三次世界大戦が迫っているわけでもなく、リーマンショック並の金融危機が起ったわけでもない。事情はそれぞれ違ってはいるが、要するに自分の国で野暮用が溜まっているとかダボスへ行っても良いことがありそうもないという下世話な事情であろう。ある意味ではダボス会議の劇場性をいみじくも浮き上がらせた出来事だったと云える。

それにしても、今日この頃ダボス劇場の登場人物だと思われている世界の指導者の顔ぶれを思い浮かべてみると、良くもまあこんなに手負いが揃ったなあと思ってしまう。トランプは頑張っているものの悪戦苦闘を絵に描いたような状況。習近平は成長鈍化、対米摩擦で眠れぬ夜が多いだろう。プーチンも国全体の劣化を強権の手品で隠し続けている。メルケルも不屈を信じた鉄壁が揺らぎ始めたのを感じている。マクロンは短かった高揚の夢が無惨に潰え、今や廻りはブルータスばかり。メイは荒野を当てもなくさ迷っている。モディはメッキが剥れ、文在寅は袋小路。エルドアンは、マドゥロは、と指を折ると全く驚く他ない。

今日の世界には、胸をはって自信を持って未来を語りうる指導者が一人もいなくなってしまう。指導者の劣化だと云う人もいるだろう。いや国民の劣化だと云う人もいるだろう。しかし私は劣化ではないと思う。国民の側に問題を原点に戻って考えようという意欲が生まれ、指導者が指針ときっかけを与える洞察力を持っていれば、動きは始まるのである。歴史は成功と失敗に満ちているが、成功の事例があったことは紛れもない事実である。ダボスの夜空に希望の星が見える日が来るかも知れない。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2019 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>